



☆☆☆ 本日のプログラム ☆☆☆

司会 佐々木プログラム委員

【ロータリー情報】百瀬正容委員長



ロータリークラブの2月は「世界理解と平和」がテーマです。今日は松本市の多文化共生の取り組みについて、先日1月24日に私共、東部地域の人権啓発講座に来ていただいたお二人に講演をして頂きます。



松本市住民自治局
人権共生課国際交流担当
小山 結 様

多文化共とは聞きなじみのない言葉かと思いますが、国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的な違いを認め合い対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと、定義付けされています。すべての人々が地域の中で安全に共に生きていこうと、橋渡し役となる多文化共生キーパーソンの登録を進めています。

松本市では「多文化共生推進プラン」を作成し、現在は第3次プランが進行しています。

多文化共生キーパーソン

寺島ゆい 様



中国出身の寺島ゆいと申します。人生の半分を中国で過ごし、残りの半分を日本で過ごしてきました。さらに、カナダでの留学経験を通じて、様々な文化に触れることができました。今回の定期会で私が発表させていただいたテーマは「私、空気読めないですが、大丈夫かな?」です。

日本社会では「空気を読む」ことが非常に重要視されていますが、外国由来で私のような苦手な人が本当に大丈夫なのか、それについて「多文化共生」というキーワードを中心に考えてみました。中国国内でも、多様な民族や広大な領土によって、さまざまな気候や生活習慣の違いが存在し、「多文化共生」が既に行われていると感じています。市役所のデータでも表したように、日本国内では外国人や外国人労働者が増えており、世界的に見ても、多様な人種や文化が共存する状況が避けられない状況と考えられます。これからは、松本市も含め、多様な文化に向き合う必要があると考えます。

私自身の経験から、「空気を読む」ことの限界を感じ、それよりも「空気を読まずに、ちゃんとコミュニケーションを取る」との重要性を生活の実際の経験を通して再認識しました。

最後に、私が好きな言葉である「global village(地球村)」を引用させていただきます。世界がグローバル化し、交通手段や通信手段が発達する中で、地球全体が一つの村のように緊密な関係になっています。そして、長野県や松本市も時代とともに、多文化の環境が進んでいると感じます。松本地域では私のような「空気を読めない」人も含め、オランダやフィリピンなど様々な国から個性豊かな外国人がたくさん集まっています。それぞれの出身や経験が異なりますが、平和な未来のために、出身国、民族、性別、年齢、出身、性格、肌の色は関係なく、みんなで理解しあい、支え合い暮らせる社会を築いていくことを是非応援したいと思います。

【点鐘 13 : 30】

永田会長

【第8回40周年実行委員会】



第3次松本市多文化共生推進プランの目標

●4つの分野でそれぞれ目標を掲げ、5年後に目指すまちの姿を示します。

基本目標1 地域社会

～地域社会の誰もが多文化共生に関心を持ち、誰もが参画する持続可能なまち～

- 多文化共生意識の向上
- 外国人住民の社会参画促進



基本目標2 コミュニケーション

～言葉の壁を越え対話が活発であり、必要な情報を得られるまち～

- やさしい日本語・多言語による発信
- 多文化共生キーパーソンの活用
- 相談体制の充実
- 日本語学習支援体制の充実

Point
「やさしい日本語」で言ってみよう
(例) 避難する
やさしい日本語: 逃げる



基本目標3 教育・子育て

～どの子どもに必要な学習が得られるまち～

- 日本語教育・就学支援体制の充実
- 子育て環境の充実



基本目標4 暮らし

～多様な人々と共生する安心・安全で支え合いの心がつながるまち～

- 災害対応力の向上
- 働きやすい環境づくり
- 医療・健診を受けやすい環境づくり

